

chemfml パッケージ

@Amadeus_vn

目次

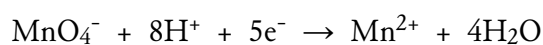
1. 概要	1
2. Example	1
3. 使い方	2
3.1. 式の構成	2
3.2. 演算子	2
3.3. 化学式	2
4. Future work	2

1. 概要

chemfml は SATYSF_I の組版で化学式や化学反応式を組みやすくするためのパッケージです。
L^AT_EX における mhchem のような感覚で化学式を組むことができます。

2. Example

```
+p{
  \chem(`MnO4- + 8H+ + 5e- -> Mn^2+ + 4H2O`);
}
```



3. 使い方

3.1. 式の構成

```
\chem(`MnO4- + 8H+ + 5e- -> Mn^2+ + 4H2O`);
```

それぞれの化学式や演算子 (+ や -> など) は半角スペースで区切ります。chemfml では半角スペースで区切られたそれぞれの化学式または演算子のことを molecule と呼んでいます。

3.2. 演算子

molecule の文字列が予約されたものの場合は演算子として処理されます。登録されている文字列と演算子の対応表は以下の通りです。

文字列	演算子
+	+
-	-
->	→
<-	←

3.3. 化学式

```
\chem(`MnO4-`), \chem(`Mn^2+`)
```

molecule が演算子でない場合は化学式として処理されます。係数以外の数字は基本的に下付きの添字となりますが、[^]を用いることでそれ以降数字や符号が続く限り上付きの表示になります。+ や - が表われると自動的に以降が上付きになります。

4. Future work

- 演算子の種類を追加する。
- フォントについて検討する。
- 質量数や原子番号に対応する。
- 沈殿やガスの矢印に対応する。
- 注釈や文字式のため inline-text を受けつけられるようにしたい。

- 矢印の上下に注釈を追加できるようにしたい。